

新たな富山市洪水ハザードマップ（案）のパブリックコメント
 におけるご意見と市の考え方

新たな富山市洪水ハザードマップ（案）について、パブリックコメントを実施いたしました結果、次のとおりご意見が寄せられましたので、それに対する市の考え方と併せて公表いたします。

【意見募集期間】

令和元年11月18日（月）～令和元年12月9日（月）

【意見提出者数及び意見数】

8名 23件

【ご意見と市の考え方】

No.	ご意見	左記に対する市の考え方
1	<p>富山市洪水ハザードマップの沿革</p> <p>(1) 平成6年 建設省北陸地方建設局作成 150年に1回程度起こる大雨で2日間の総雨量 常願寺川 498mm (昭和44年集中豪雨 460mmの1.08倍) 神通川 264mm (昭和47年梅雨前線 203mmの1.30倍)</p> <p>(2) 平成14年9月国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所作成 指定の前提となる計画降雨(1)に同じ</p> <p>(3) 平成18年6月富山市建設部防災対策課作成 150年に1回程度起こる洪水の規模(48時間の総雨量) 常願寺川 500mm 神通川 260mm</p> <p>根拠が理解されていない</p>	<p>本市が平成18年に作成した「我が家の安全安心ブック」の総雨量に関する記載についてのご意見と理解いたします。</p> <p>今回、新たな洪水ハザードマップに加えて作成する情報冊子(p.6)では、河川管理者である国や富山県が示す総雨量を記載いたします。</p>
2	<p>大正3年の台風による神通川の大洪水、以後大きな水害を経験していないため、富山市民の自然災害に対する意識は高いとはいえない。神通川については、平成16年の台風23号の雨量を基準にした方が、より理解され易いと考える。</p>	<p>平成16年の台風23号は、神通川の観測史上最大の出水量を記録したもので記憶にも新しいところです。</p> <p>ご意見のとおり、比較対象となる数字として掲載することで、降雨の強さの理解が高まるものと考え、新たな洪水ハザードマップに加えて作成する情報冊子(p.6)に平成16年台風23号の観測雨量を記載いたします。</p>

3	<p>浸水の深さの色分けについて、もう少し区別しやすく、見やすい色使いとしていただきたい。</p>	<p>浸水深さの色分けにつきましては、国が示す手引きにて、地域住民のみならず旅行者や通勤・通学者がどこにいても洪水リスクを認識し、避難行動を検討できるようにするため、市町村の間でも統一するよう推奨されているものであり、色覚障がいのある方への配慮なども検討された標準の仕様を採用しているものです。</p>
4	<p>目の手術をした者にとってはとても認識しがたく、もう少しはっきりした色遣いにしてもらいたい。</p>	<p>配色の判断が難しい場所につきましては、新たな洪水ハザードマップに加えて作成する情報冊子(p.4)において、色合いを突合して確認できるページを設けますので、ご活用ください。</p>
5	<p>色合いが非常に見にくい。 軽度の色覚異常を持つ方にも見てもらったが、1段階（50cm未満）とそれ以上しか見分けられなかった。 微妙な色合い変化のグラデーションは、危険を知らせるためのものとしては認識の間違いが起こる可能性が高い。違いを出すために、相反する色相で彩度の高いものを使ったらよいと思う。</p>	<p>配色の判断が難しい場所につきましては、新たな洪水ハザードマップに加えて作成する情報冊子(p.4)において、色合いを突合して確認できるページを設けますので、ご活用ください。</p>
6	<p>ハザードマップ（案）の色調は単色による濃淡表現に近く、高齢化していく今後有効活用されるか疑問である。一目でわかり易い色調にしていただきたい。色覚障害の方には別途配慮すべきと考える。</p>	
7	<p>地図右端の警戒レベルの色は、気象庁の配色規定に則った方が情報の統一が図れてよいのではないか。</p>	<p>地図面で扱う情報の配色との整合を考慮した配色としております。</p>
8	<p>閾値は6段階も必要ないと思う。浸水5m以上になれば一戸建ての家は丸のみにされている状態であるし、外に出て避難することはもちろん不可能である。 逆に、50cm～3mが同じ色分けに入っているが、50cmと3mの浸水状況では、状態に大きな差があるのではないかと。 過大評価の3mなら避難するところ、過小評価の50cmなら避難しないかもしれない。</p>	<p>国が示す手引きでは、1階床高に相当する0.5m、2階床下に相当する3m、一般的な家屋の2階が水没する5m、それからこれを上回る浸水深として10m、20mを用いることを標準とされ、基本的には地域住民のみならず旅行者や通勤・通学者がどこにいても洪水リスクを認識し、避難行動を検討できるようにするため、市町村の間で統一するよう推奨された標準の仕様を採用しているものです。 5mより大きな区分値が入ることは、高層階にお住まいの方にとって、自らのリスクをより適切に把握していただくことにつながり、屋内での安全確保の目安になる利点もあると考えております。</p>

		<p>また、0.5mは屋外への避難行動が困難な浸水深さの目安とされていることから、0.5m～3mの1階床上部分の浸水が想定される区分は、屋外への避難、若しくは2階以上での屋内での安全確保の目安としてご確認いただきたいと考えております。</p>
9	<p>基本想定と最大想定、二つも作る意味がわからない。ハザードマップを参考にする市民が、それらを使い分ける判断の決め手はなにか。雨量か、台風の規模、低気圧、雨の原因か。</p> <p>超大型・猛烈台風でも富山ではほとんど雨が降らない場合もあれば、スーパーセルによる局所豪雨で富山だけ大洪水になることも考えられる。</p>	<p>「最大想定」では、浸水が想定される区域が広がることで避難対象者が増える一方、浸水深が深くなることで避難場所の有効面積が減少します。</p> <p>これにより、避難距離が遠くなる、避難方法が変わるなど厳しい避難となることが想定され、毎回の避難となると住民の負担が大きく、発生頻度が極めて低い設定であることもあり避難率の低下につながることを懸念しています。</p> <p>これに対応するものとして「基本想定」を設け、降雨の規模感に応じた適切な避難により、避難率の向上を図りたいと考えております。</p> <p>その時の雨の降雨予測などの情報を基に、本市の判断において、あらかじめ「基本想定」を超えるおそれがあると判断される場合を除き、「基本想定」を対象とした避難情報を発令します。一方で、ここぞというときに「最大想定」を対象とした避難情報を発令することで、警戒意識の高まり、避難率の向上や早期の避難につながるものと考えています。</p>
10	<p>八尾地区のハザードマップ（地区詳細図⑥：八尾、保内、杉原（案））には、八尾地区統合新中学校の位置や想定も載せるべきではないか。</p>	<p>新たな洪水ハザードマップに示す避難場所は、マップを公表・配布する令和2年6月時点で市が指定する避難場所としており、未完成の施設については指定されていないことから掲載しないこととしております。</p> <p>マップ完成後に、避難場所として新たに指定される施設がありましたら、その都度、市ホームページにて周知を図ってまいります。</p>

11	<p>避難場所については、建築制限あり、2階までの適切な場所を指定して欲しい。</p>	<p>本市においては、広い範囲で浸水が想定され多くの避難対象者が見込まれていることから、家屋倒壊等氾濫想定区域のリスクを考慮するなど、洪水時の避難場所として有効な施設につきましては、3階以上の利用が見込まれる施設であっても指定いたします。</p> <p>新たな洪水ハザードマップでは、従前マップと同様に避難場所ごとの利用可能階を記載いたしますので、避難先の検討の際にご確認ください。</p>
12	<p>豊田地区は慢性的に避難場所が不足している。地区センターは安全だが住民の半分が水没する地域に住んでいるので、とても収容しきれない。</p> <p>そこで、県営住宅や民間マンションの何階以上への避難や8号線への避難など、具体的に表示してもらいたい。</p>	<p>市は、公共性が高く安全と考える施設を避難場所として指定し、それぞれの利用可能階を洪水ハザードマップに記載しております。</p> <p>ご意見のとおり、避難先としましては、丈夫な建物等の高層階など、市が指定する避難場所以外の場所・施設についても候補であると考えますが、これらの場所等の安全性につきましては避難される方が自らご判断いただきたいと考えております。</p>
13	<p>城川原公園の一角に津波被害の時に避難するような高さ10m以上の避難棟のようなものがあれば安心であるが、いかがか。</p>	<p>ご提案のとおり、近くに避難場所となる高い建物があることは安心につながるものと考えます。</p> <p>しかし、市といたしましては、新たな避難場所としての施設の新築・造設は、現時点では考えていないことから、高い建物が必要と考えられる浸水深が深い区域からは、早い段階で立退き避難をしていただくよう呼び掛けてまいりたいと考えております。</p>
14	<p>新しいハザードマップをみると、中心市街地は、高い浸水深となっており、避難するための場所が足りないと感じる。</p> <p>富山市は公共の施設だけでなく、マリエなど民間の施設も避難場所に指定する取り組みをされているが、今後はこうした取り組みを拡充する必要があると感じた。</p>	<p>新たな洪水ハザードマップでは、浸水域が市内の広範囲にわたり、中心市街地等では、深い浸水深が想定されるため、避難が可能な公共施設が限られております。</p> <p>こうした中、災害時には、命を第一に、危険を避け、適切な避難経路で、安全な場所への避難が適切な避難行動とされ、市が指定する緊急避難場所に拘らず、浸水の恐れのない安全な避難先（親戚・知人宅等）を複数確保することが重要となります。</p>

		<p>今後も、災害時協力事業者登録制度や民間施設も活用した緊急避難場所の拡充などを通して、避難先の確保に努め、市民一人ひとりが適切な避難行動を取れるように防災意識の普及啓発を図ってまいります。</p>
15	<p>洪水時の緊急避難場所が一目で分かるように、当該 MAP に津波避難ビルを落とし込んでいただきたい。</p>	<p>市が指定する緊急避難場所は、災害種別ごとにそれぞれ有効となる施設・場所を指定しております。</p> <p>新たな洪水ハザードマップでは、洪水時において有効となる「洪水時の指定緊急避難場所」を記載いたします。</p>
16	<p>車で避難について</p> <p>もう少しはっきり行政にできる事には限界があることを前面に出してもいいのではないか。</p> <p>車で避難といっても、一斉に避難できるなどあるのか。</p> <p>車で避難の場合の避難場所も入れてもらいたい。</p>	<p>本市においては、浸水域が市内の広範囲にわたり、徒歩避難圏内の避難場所だけでは収容能力が十分ではない地区も想定されることから、足の不自由な方や避難場所が遠い方などの徒歩避難が困難な方の選択肢の一つとして自動車避難の考え方を示しています。</p> <p>自動車避難の避難先として想定する、浸水が想定されない地区には、広い駐車場を持つ避難場所もございますが、ご意見のとおり収容能力には限りがありますので、マップに加えて作成する情報冊子(p.7,8)において、マップに示される避難場所に拘らず、浸水の恐れのない安全な避難先（親戚・知人宅等）をあらかじめ想定し、早めに避難していただけるよう記載いたします。</p>
17	<p>高齢者の町であり、誘導には限界ある。</p>	<p>災害の規模が大きくなるほど、公助による住民への迅速な援助が困難となります。被害を小さくするためには、自分でできること、地域で力をあわせできること等を市民の皆様が主体的に考える自助・共助の力が不可欠です。</p> <p>避難方法や家庭で行える浸水対策など、「命を守るための行動」をとるための情報をマップに加えて作成する情報冊子に掲載いたします。また、出前講座や総合防災訓練などの取り組みを通じて、防災啓発に努めてまいります。</p>

18	<p>訓練優先を指導徹底して欲しい。</p>	<p>マップに加えて作成する情報冊子(p.17)では、避難訓練への参加を促す記載をいたします。また、今後とも出前講座や総合防災訓練など、機会を捉えて避難訓練への参加の啓発に努めてまいります。</p>
19	<p>とどく情報の防災行政無線機について 台風などの大雨の際、防災行政無線機から音声は十分届くのか。 どこに設置され、音声はどの程度の範囲まで聞こえるものなのか。 おおよその位置で構わないので、防災行政無線機一覧といった表などで情報提供をお願いしたい。</p>	<p>防災行政無線機のスピーカーからの音声が届くかどうかは、設置場所からの距離やそのときの気象状況に影響されることもあり、一概には言えないものと考えます。 音声到達距離は約300mとなっておりますが、雨や風が強い場合などには到達範囲内であっても聞き取れない場合があります。 スピーカーの設置位置情報については、富山市ホームページの「インフォマップとやま」にて確認いただけます。このことをお伝えするため、新たな洪水ハザードマップへ「インフォマップとやま」にて確認いただける旨を記載いたします。</p>
20	<p>機器障害に備える意味でも、防災行政無線機での音声情報に加え、公式 web や富山市の防災情報ツイッター等で文字情報としても広く避難情報を発信していただきたい。</p>	<p>これまでも、防災フェイスブックや防災情報ツイッターでの発信による多重化を行ってきたところですが、今後も、さまざまなツールを用いて、広く情報を発信していきたいと考えております。</p>
21	<p>緊急連絡はサイレンが最適である。</p>	<p>情報伝達の方法に関しましては、防災行政無線も含め複数の方法を採用しております。 情報を受け取られる市民のさまざまなニーズに対応できるよう今後も調査研究していきたいと考えております。</p>
22	<p>観光客の安全確保のため、洪水被害が予想される際、外国人観光客に対し当該洪水ハザードマップにより、危険な箇所を示し、注意喚起したいと考えているので、多言語での洪水ハザードマップの作成をお願いしたい。</p>	<p>観光客に限らず、市内在住の外国人の数は増加傾向にあることから今後、外国語版の洪水ハザードマップの必要性があるものと考えており、言語の種類や周知の方法について検討していきたいと考えております。</p>
23	<p>洪水ハザードマップを早急に配布願いたい。R2年夏頃は遅い。</p>	<p>令和2年の広報6月20日号と一緒に市内全戸配布いたします。</p>